

ASEANタクソノミーの概要

ASEANタクソノミーの全体像

- 2021年11月、ASEAN財相・中央銀行総裁会合（AFMGM）の支援を受けたASEANタクソノミー委員会（ASEAN Taxonomy Board: ATB）は、ASEAN域内の官民におけるサステナブルファイナンスを促進することを目指し「サステナブルファイナンスのためのASEANタクソノミー」初版を公表した。

主なポイント

- 4つの環境目的と2つの必須基準を設定。
- ASEAN加盟各国の多様な産業構造と経済発展段階に対応するため、多層的（Multi-tier）アプローチを採用。
- 「基本フレームワーク」（Foundation Framework : FF）と「プラス基準」（Plus Standard : PS）の二段階での判定。前者でタクソノミー適合対象の枠組・質的基準を示し、後者でに満たすべき基準・閾値など定量的な事項を定める。
- 「基本フレームワーク」（FF）、「プラス基準」（PS）それぞれにおいて、適格（緑：Green）・不適格（赤：Red）と、その途中段階（琥珀＝黄：Amber）の区分を設定。
- なお、今回発表の「ASEANタクソノミー」初版においては、定性的判断を行う「基本フレームワーク」（FF）の一部のみが示され、定量的基準である「プラス基準」（PS）の詳細は「今後の検討」とされた。

環境目的と必須基準

- ASEANタクソノミーにおいては以下の4つの「環境目的」と2つの満たすべき「必須基準」が設定された。

環境目的

- ① 「気候変動緩和」
- ② 「気候変動適応」
- ③ 「健全なエコシステムと生物多様性の保全」
- ④ 「資源レジリエンスとサーキュラーエコノミーの促進」

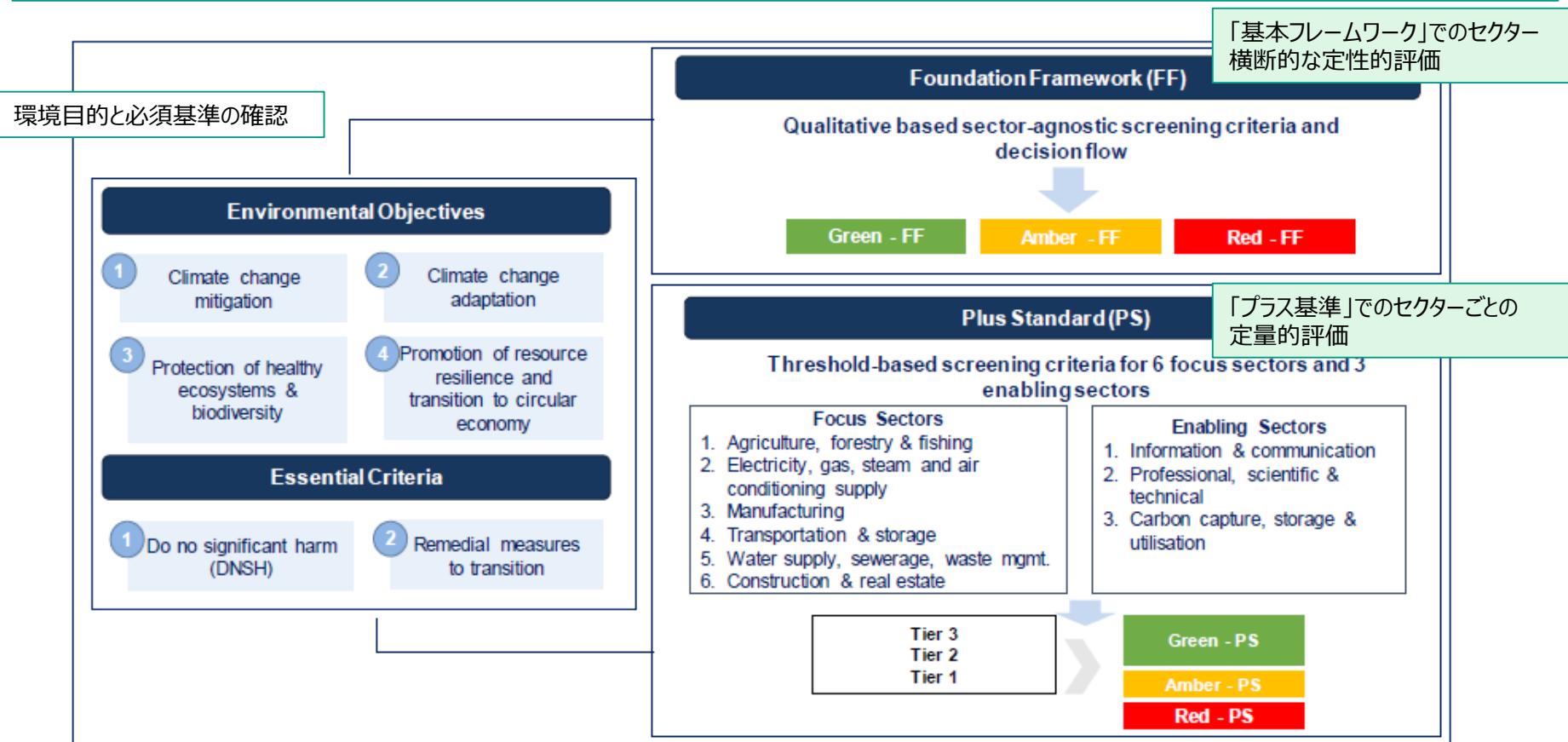
必須基準

- ① 「著しい害を及ぼさないこと」 (Do No Significant Harm: DNSH)
- ② 「トランジションへの救済措置」 (Remedial Measures to Transition)

※ 「トランジションへの救済措置」 (Remedial Measures to Transition) とは、事業によって発生する気候・環境に関するリスクやインパクトの回避が難しい場合、受容可能なレベルまでリスクとインパクトを最小化・低減することを要件とするもの。

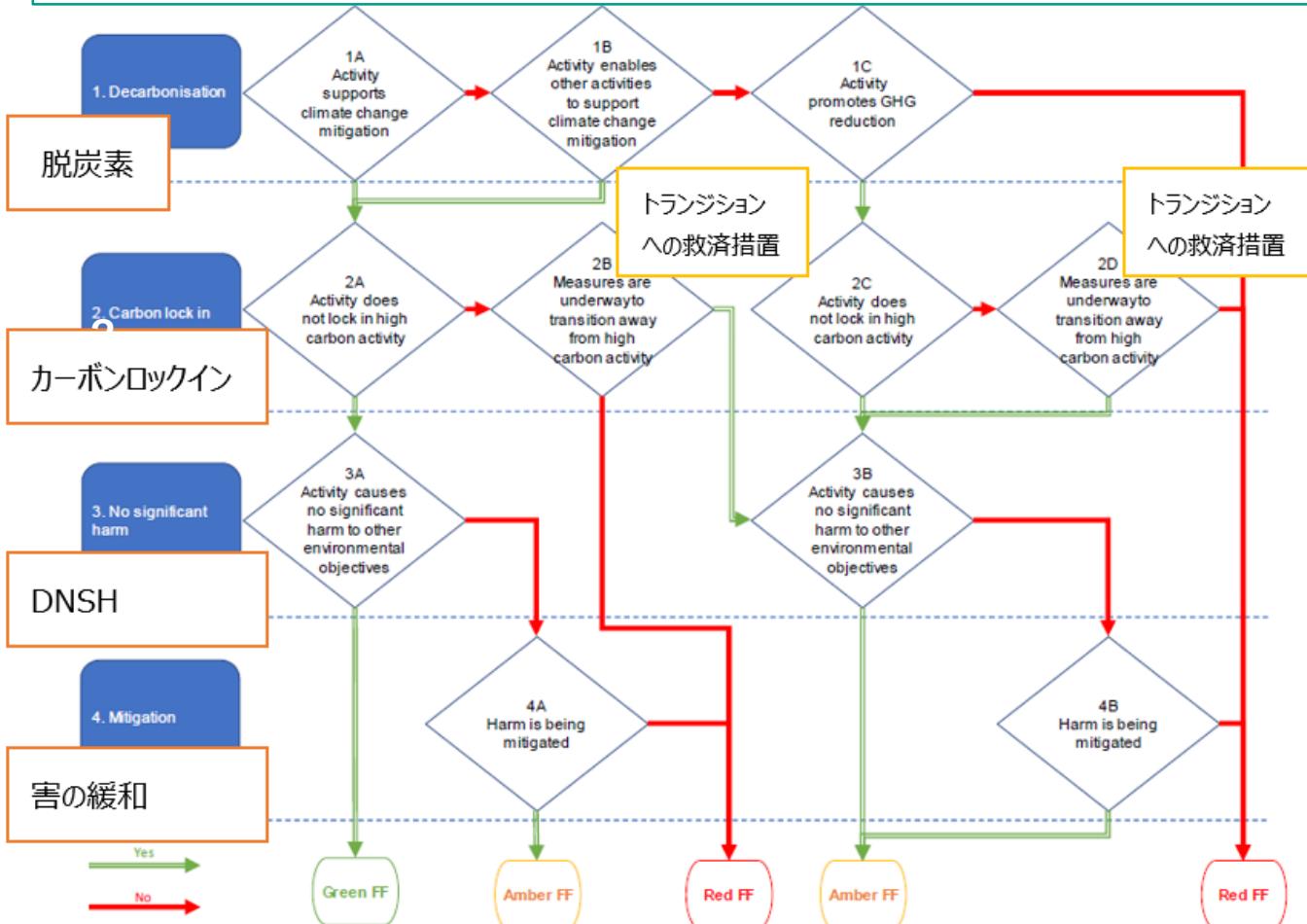
多層的 (Multi-tier) アプローチ

- ASEANタクソノミーにおいては「基本フレームワーク」 (Foundation Framework : FF) と「プラス基準」 (Plus Standard : PS) の二段階で経済活動のタクソノミー適合性を確認する。
- 「基本フレームワーク」 (Foundation Framework : FF) と「プラス基準」 (Plus Standard : PS) それぞれについて適格 (緑 : Green) ・不適格 (赤 : Red) と、その途中段階 (琥珀=黄 : Amber) の評価を実施する。



「基本フレームワーク」 (Foundation Framework : FF)

- 環境目的ごとに評価のための決定木を作成し、タクソノミー適合を評価する。今回公表の「ASEANタクソノミー」初版では「気候変動緩和」の決定木が示された。
- 「トランジションへの救済措置」が取られていることや、DNSHを満たさない（重大な害が危惧される）場合の害の緩和が確認されれば、黄（Amber）の分類になり得る。



脱炭素に貢献する活動と見なされるものの【第1層】、カーボンロックイン効果を引き起こすことが予想される活動について【第2層】、「トランジションへの救済措置」が取られていれば【第2層】黄（Amber）の分類となる可能性が残される。

また、DNSHを満たさない（重大な害が危惧される）場合においても【第3層】、その害が緩和されることが確認されれば【第4層】黄（Amber）の分類となる。

「プラス基準」 (Plus Standard : PS)

- セクター別の技術的スクリーニング基準や閾値等定量的基準を定め、タクソノミー適合性を評価する。
- 「基本フレームワーク」 (Foundation Framework : FF) と同じく、緑黄赤3色の区分で適合性を分類。
- 閾値設定については下記の3区分による多層的な積み上げ型アプローチを用いることが明記されている。（なお、今回発表の「ASEANタクソノミー」初版ではこのTierと緑黄赤3色区分の関係性は明記されていない。）
- 使用すべき指標や閾値、その他詳細等は今後の検討事項とされた。

